海外だより

ノートル・デームの學生生活

橋口隆吉

インディアナ州の北の端，西へ寄つたところに，サウス・ベンドという小さな町がある。北のミシガン州に發したセント・ジョセフ河が南に流れてインディアナ州に流れこみ，大きく彎曲して北に流れ，再びミシガン州に入つて，ミシガン湖にそそいでいる。南端の彎曲點にできた町がサウス・ベンドである。人口は十數萬，小ぎれいな小都會である。スチュードベーカーとベンディックスの二大工場が町の經濟をうるおしている。街の中心商店街は丁度銀座位の大きさ，デパートの階數も銀座のデパート位，ただ銀座より餘程きれいである。支那料理屋が3軒ある。日本料理屋はない。日本人二世の家族が三つほどある。純粹の日本人は私が一人。

郊外に出ると，あくまで平らなインディアナの曠野が，無限につづいている。ところどころに雜木林があり，その間に小さな湖が青く光つている。

サウス・ベンドの北側のシティ・リミツトを出たところに，ノートルデーム大學がある。セント・メリーに，セント・ジョセフという二つの小さい湖，綠の芝生，つた，森，栗鼠，小鳥，花，こんなものにとりまかれた夢のように美しい大學である。カソリックの大學として有名であり，フットボール・ティームの强いことでは，全米に鳴りわたつているが，工學部はアメリカとしては二流である。私の一年半の滯米中，三分の二をすごしたのは，この大學とサウス・ベンドの北西部にある私の下宿の一室の中であつた。

朝八時半に枕もとの目覺しが鳴る。20分でひげを剃りミルクを一杯飲んで，パイとチョコレートをほほばつたまま，玄關の前にパークしてある37年のフォードにとび乘る。角のガレージのおやじに，「今日はよいお天氣だね」などと，車の中から挨拶しながら，セント・ジョセフ河にそつた公園をぬけて，ミシガンアヴェニューのつづきであるハイウェイ31番を北へすすみ，右に折れると大學である。下宿から大學まで2哩半，約六分である。工學部の建物の近くのパーキング・ロットにパークして，研究室に行くと大體9時10分頃。

午前中3時間もオプティカル・コニオメーターをのぞき込んでいるとずいぶん目がつかれて來る。友達をさそつて大學のキャフェテリヤに晝食に行く。肉の一品料理にサラダ，ミルク，果物のパイ，いつもこの位の晝飯を食べる。70セント位。食堂でしばらく駄辯つたり，湖のほとりを散歩しながら，東洋諸國から來た留學生と東洋問題を議論したりもする。「とにかく日本は大きなミステークをおかした。しかしこれからは仲よくやつて行こう」これが彼等の大部分の論調である。

フットボールの日のノートル・デーム大學
左の建物は工學部，中央の金色のドームが大學本部，カメラと反對の方向にフットボールのスタデイアムがある。

1時からまた實驗をはじめ，3時頃になるとまた一寸息をぬきたくなる。「ロバート，ハドルに行こう」「オーケー」というわけで，大學内のコーヒースタンド・ハドルにアイスクリームを食べに行く。Huddleというのは群るとか急いで作るという意味で，コーヒースタンドの名前である。

5時まで實驗をつづけて，キャフェテリアで夕食をとり，そのまま歸ることもあるが，また實驗室にもどつて，實驗をつづけることもある。學位論文の完成を急ぐ大學院學生がいつも二三人，夜10時頃まで殘つて，こつこつやつている。

下宿に歸ると下宿のお婆さんが，「ロバート，今日はよい手紙が來ているよ。消印を見ると5日前に日本を出しているらしいけど，一體日本という國はどこにあるの？」「ここから8000哩はありますよ」「8000哩？　おどろいた！　日本にもクリスマスはあるのかしら？」「もちろんありますよ。街にはクリスマス・トゥリーを飾るし，子供達はやつぱりサンタクロースは煙突から入つて來るのだと思つていますよ」

月曜日から土曜日の晝まで，大學生達は實によく勉强する。しかしウィークエンドはリクリエーションに使われる。ダウン・タウンのYWCAが一週おきの土曜日に，オープン・ハウスのダンス・パーティを開く。だれが行つてもよいし，ことに外國學生歡迎である。アメリカに行つてからおぼえた下手なステップで踊つたり，レフレッシュメントのサンドウィッチを食べたりするのもまた樂しい。

シカゴがサウス・ベンドから100哩位の距離にあるので，2ケ月に一度位はウィークエンドにシカゴまで出て行く。同志を四五人勸誘して，ガソリン代を割かんにしてドライヴすると，電車賃の十分の一位になつてしまう。自動車が4台すれ違うことのできるフォア・レーン・ハイウェイを70哩のスピードで，すつとばす時の爽快さはわすれられない。

思い出というものは美しいものである。どんな小さい曲り角もおぼえてしまつた。サウスベンドの街，遠くから見えるノートル・デームの金のドームと教會の尖塔は，私にとつて第二の故郷のようになつかしい。

(1951・2・9)